

Ⅲ【次世代育成支援対策体系】

少子化対策から次世代育成支援対策へ —子ども家庭福祉改革の行方を見据えて—

湘徳大学総合福祉学部教授 相 女 暲
日本子ども家庭総合研究所子ども家庭政策研究担当部長 相 女 暲

少子化、次世代育成支援、児童福祉法、子ども家庭福祉

1. 次世代育成支援・子ども家庭福祉改革の 助走

平成17年4月から、わが国の子どもの家庭福祉は、改革の助走を開始することとなった。それは、戦後まもなく創られた「都道府県を中心とした職権保護による施設サービスの提供」を中心とするシステムから、「市町村・地域を中心とした利用者主体の包括的福祉サービスの提供」を中心とするシステムへの改革の助走といえるだろう。平成12年のいわゆる「社会福祉基礎構造改革」の理念であった「パターナリズムからパートナーシップへ」とのスローガンが、ようやく子ども家庭福祉を巻き込むとしているのである。

それは、多くの人が当たり前に福祉サービスを利用し、また、多くの人が、これまた当たり前のように福祉サービスの担い手となる福祉の「普遍化」を意味する。しかしまた一方で、介入やサービスを強固に拒む利用者に支援を届け、また、困難な生活課題を抱える利用者を長期に渡ってケアし、さらには専門的に支援するシステムの確立、すなわち福祉の「専門化」も必要である。特に、子ども家庭福祉においては、子ども自らが進んで福祉サービスの利用主体となることができないう特性から、公的責任、パターナリズムの視点が重視されなければならない。

少子化や子ども虐待の顕在化、育児の孤立化は、これまでの都道府県、職権保護、施設を中心とする子ども家庭福祉システムの限界を示している。

いわゆる税制三位一体改革や総合施設の検討、障害者自立支援法案にともなう障害児福祉サービスの利用制度の変更など子ども家庭福祉の基礎構造をめぐる改革動向も、現行システムの限界を克服するための歩みの一環と捉えることができる。

今こそ、「普遍化」と「専門化」という二つの理念を両立させた新たなシステムを、創造していくことが必要とされている。本稿では、こうした方向を展望しつつ、少子化対策から次世代育成支援施策に至る歩みを総括し、今後の次世代育成支援、子ども家庭福祉の歩むべき道筋を考察することとする。

2. 少子化対策がもたらしたもの

(1) 少子化対策の始まり

平成2年6月、平成元年の合計特殊出生率が統計史上最低を更新する1.57となったことが公表されると、高齢化社会の基礎整備を進める老人福祉法等の一部を改正する法律の審議中であった国会は大きなショックに見舞われた。これがいわゆる1.57ショックである。以後、子育て・子育て支援施策は「少子化対策」として、いわゆる「年金・医療・介護」を下支えする施策としての歩みを始める。少子化対策は平成6年のエンゼルプランに結実し、さらに平成11年の新エンゼルプランへと引き継がれていく。

(2) 少子化対策の結果

少子化対策は、その性格上、いわゆる一般的

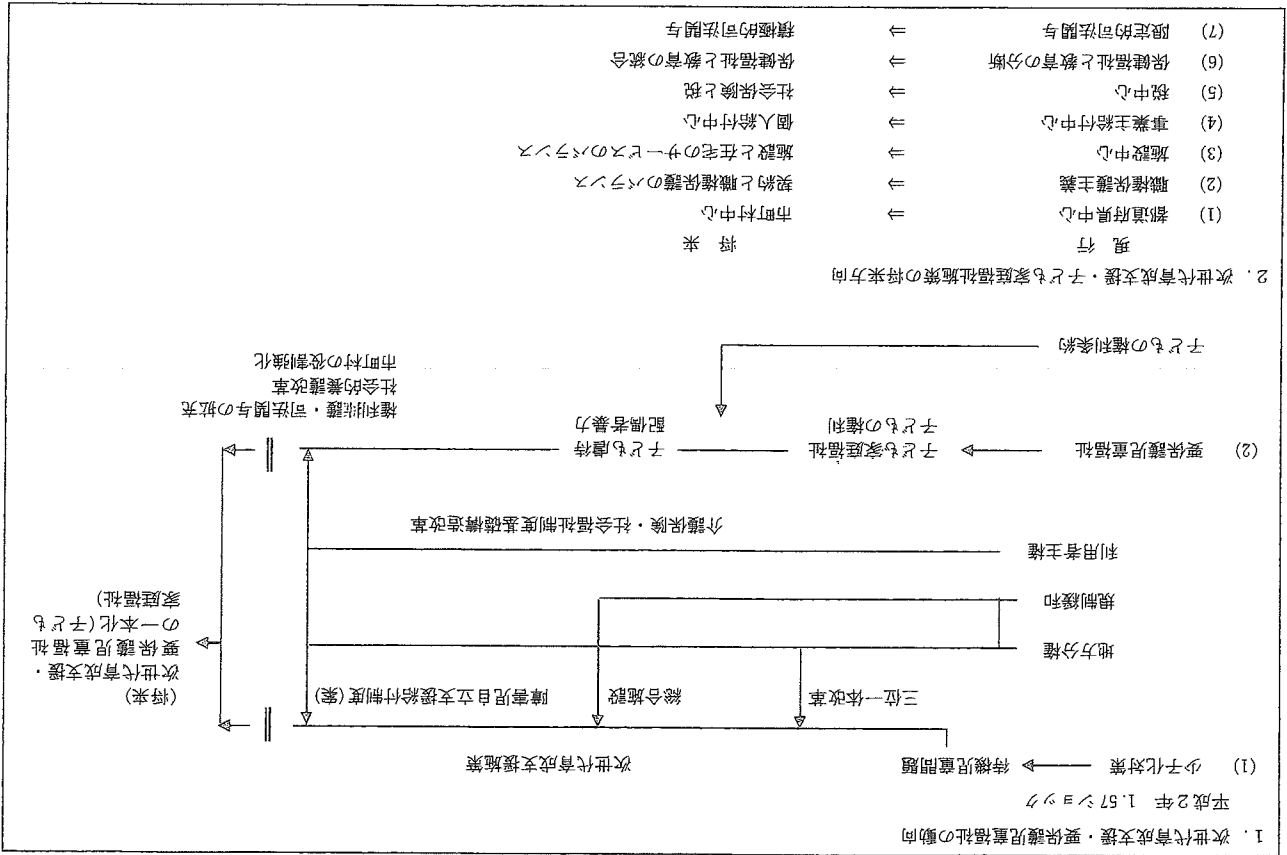


図 次世代育成対策・子育て支援・児童福祉の理念

きる。

高齢者福祉と障害者福祉のシステム統合が将来の課題として組上りにのぼり、障害者自立支援法案が検討されている今、次世代育成支援・子ども家庭福祉施策体系も、①市町村中心、②契約と職権保護のバランス、③施設と在宅サービスのバランス、④個人給付中心、⑤社会保険と税、⑥保健福祉と教育の統合、⑦積極的司法関与、の方向を念頭に、再構築に向けて検討を開始することが必要と思われる。

冒頭に述べたとおり、少子化対策は、年金・医療・介護充実のための手段として出発した経緯をもつ。そして、現在もなお、次世代育成支援施策はその水源を引きずっている。

これからの次世代育成支援・子ども家庭福祉は、「年金・医療・介護」と「少子化対策」に二分化されるのではなく、「年金・医療・育児・介護」の四つ葉のクローバーによって再構築されなければならない。そこそそが、人間の一生を通じた福祉・安寧を保障することになるのである。最後に、これをらままとめたのが図である。

註1) 本稿においては、次世代育成支援施策の主たる子ども家庭福祉分野と要保護児童福祉分野が統合された施策体系を子ども家庭福祉と呼ぶ。なお、次世代育成支援施策体系と子ども家庭福祉とは体系が異なっているが、ここでは紙幅の関係でその問題は取り上げず、両施策体系を並行して用いることとする。

〈文献〉

- 1) 柏女霊峰「次世代育成支援と保育」全国社会福祉協議会(2005)
- 2) 柏女霊峰ほか「子ども家庭福祉サービス供給体制のあり方に関する総合的研究」、『平成16年度厚生労働科学研究費補助金(子ども家庭総合研究事業)報告書』(2005)
- 3) 柏女霊峰「次世代育成支援と保育の課題」、『保育年報 2005』全国社会福祉協議会(2005)
- 4) 柏女霊峰「子育て支援と保育者の役割」フレール船(2003)
- 5) 柏女霊峰「市町村発子ども家庭福祉」ミネルグア吉原(2005)

* * *